

お元気ですか？

ogenkidesuka

第80号

公立富岡総合
病院ニュース

- 院長 新年の御挨拶 ● インフルエンザシーズン到来
- 新型インフルエンザシュミレーションについて
- リレーフォーライフジャパンぐんまに参加して ● シリーズ職場紹介 業務課
- オータムコンサート・院内面会禁止 ● 地域医療連携だより



「流氷の鳥たち」撮影者：黒澤恵子

発行

富岡地域医療事務組合

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 📠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>



新年の御挨拶

公立富岡総合病院長 佐藤 尚文

明けましておめでとうございます。いよいよ平成も30年となりました。時代が音をたてて動いていきます。平成の御世も残すところあと1年と決まりましたが、何時の時代も平和であることを祈らずに居られません。価値観の違いがあっても良いのですが、共存をするための智慧を必要とします。ことさらに違いを強調し、力を鼓舞し、マスクミを先導することは共存ではなく対立を生みます。そして多数決で決まればそれが正義といえ、それは戦争へと繋がって行きます。対立という色分けは大変判りやすく、分かりやすさを求める人たちは白黒付けることで、落ち着くのかも知れませんが、それでは平和に近づかない気がします。『平和』の平は平等ということ、和の禾は稲を表し口は人々が食べる口、すなわち平等に食料を取得することを表す

のようです。経済至上主義は格差を生み、多数決は暴走の危険を孕みます。この平和、平等の考え方は現在に置いて大切な考え方と思いますが、さらに時間を越えて未来の人々とも平等という考え方を持つべきです。化石燃料に手を出した人類は産業革命以来、数千万年の時（石炭紀）をかけて蓄積した太陽エネルギーを僅か300年で使い果たそうとしています。その結果大気汚染や温暖化、異常気象災害というツケが回ってきていますが、さらに子孫や未来の人類に対して申し開きの出来ない我侖を享受していることに気がつきたいと思います。先祖代々大切に貯蓄した財産を、今の人間だけが使い果たし、未来にツケだけ回すことが許されないのと同じです。

医療の世界では、高価な薬、高価な機器が使われ、道具は感染

の危険があるとして例えば10万円近い機器が使い捨て、何回も充電して使えるリチウムイオン電池さえも使い捨てにされています。行政もマスクミを煽り消費して再利用できる機器さえ、再利用が悪と報じています。

物は大切に使う、再利用できる物は再利用する、メーカーは目の前の利益でなく、資源や未来の人々を考えて再利用できる設計にすべきです。目指すは使い捨て社会でなく循環社会なのです。そういう社会を作れる事こそが今を生きる我々の誇りであり、未来の人々を慮る行動として、誇りある生き方ではないでしょうか？ここまで書き進み、檀山節考の『おりんさん』の生き方を思い出しました。誇りある生き方、逝き方、について今年はまだみなで考えてみませんか？

インフルエンザシーズン到来

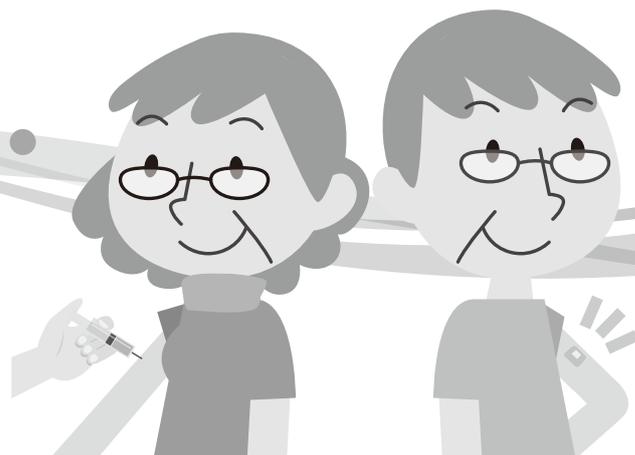
内科 増淵 健

インフルエンザの迅速診断キットが使用されるようになってまだ20年くらいです。それまで、インフルエンザは典型的な症状、突然の発症、38度以上の発熱、咽頭痛、鼻汁などの上気道炎症症状によって診断されてきました。もっとも20年前までは、抗インフルエンザ薬というものはなく、治療といえば対症療法でした。現在では内服、吸入、点滴の抗インフルエンザ薬が使用できます。早期診断、早期治療によって症状を軽減できますので適切に受診してください。また、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、癌、心不全などさまざまな疾患をもった患者さんや高齢者ではリスクが高いため予防が大切になってきます。インフルエンザワクチンはもう済みましたか。今シ

ズンはワクチンの供給量が少なく、ワクチンを接種したくてもできなかったという方もおられるとおもいます。大変申し訳ありませんでした。

また、インフルエンザで注意しなければいけないのはインフルエンザ感染後の細菌性肺炎の合併です。肺炎予防対策として、起炎菌として頻度の高い肺炎球菌にはワクチン接種が有効です。2014年から65歳以上には定期予防接種となつていますので、65歳以上でまだ接種されていないかたは是非接種をおすすめします。

最後に現在当院では院内感染防止の観点から12月より面会禁止となっています。インフルエンザの流行がすぎるまでは何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。



新型 インフルエンザ シミュレーション について

研修医 久保谷 江里



先日私も参加させてもらった、
新型インフルエンザを想定しての
訓練のことをご紹介します。

設定は、海外で鳥インフルエンザ
のヒトからヒトへの感染が発生
し、仕事でその国に行った人が帰国
して四日目に発熱して妻と一緒に当
院を受診する、というものです。

帰国した時には症状はなかったた
め、空港の検疫にはかからなかった
この方ですが、新型インフルエン
ザの流行地からの帰国ということ
で、空港で健康カードを渡されま
す。健康カードには、新型インフ
ルエンザを疑うような症状がでた
ら保健所に連絡して指示を仰ぐよ
うに、といった内容が書いてあるそ
うです。

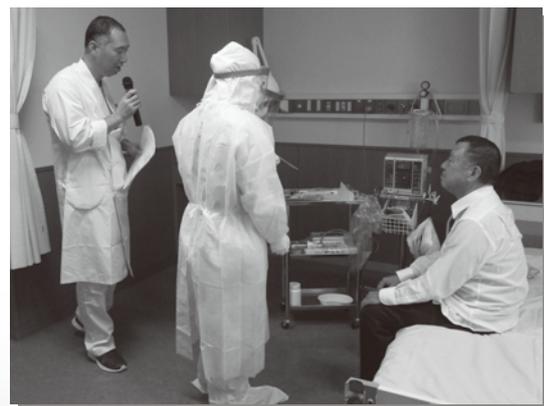
しかし、不安になった患者が直接

病院に来てしまうところから訓練
が始まります。

受付で新型インフルエンザが疑
われた患者と、濃厚接触者である
妻には、周りの人（他の患者や医
療スタッフ）への感染を防ぐために、
特別な対応が必要です。

まずは咳、くしゃみでウイルス
が飛び散るのを防ぐために、患者
と妻はサージカルマスク（病院で
よく見るマスク）を、受付は
N95マスク（小さなウイルスも
通さない特殊なマスク）を装着し、
他の人に接触しないよう、患者と
妻は一度車に戻って待機です。

次に受付から院内の感染対策
チームに連絡がいきます。感染症
病棟（室内の空気を特殊なフィル



ターを通して排出するなど、感染
症を広めないための設備がある）
を準備し、患者を診察するために
接触する医師と看護師が防護服を
着ます。

準備ができたら患者と妻を感染
症病棟（専用の出入り口がある）
に呼び入れ、診察・検査をすすめ
ます。細かいことは省略しますが、
採血した血液などの取り扱いにも
特別な注意が必要です。

最後に、防護服を外側に触らな
い正しい手順で脱いで、訓練は終
了となりました。

新型インフルエンザ発生時の対
応は、マニュアルも作成され当院と
しても対策がすすめられています。
今回の訓練はとても実践的で、有
意義なものでした。



リレーフォーライフ ジャパンぐんまに 参加して。

総務課 大手 隼人

リレーフォーライフ (Relay For Life) とは、1985年にアメリカ人医師が、がん患者さんを励まし対がん運動組織に寄付する目的で、「がんは24時間、眠らない」「がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージとして、フィールドを走ったことから始まったチャリティーイベントです。現在では世界20カ国で開催されています。

群馬県では2013年に初めて開催され、当院は1回目から参加しており、今年で5年連続の参加となりました。当院以外にも参加団体、参加者数は年々増え続け、今年は全76団体、総勢7,800人を超える参加者が集まりました(全国でも2番目の規模だそうです)。

イベント当日は、各参加チームが揃いのTシャツを着たり、病院名などが書かれたのぼりを持ったりして、前橋のグラウンドをチームで交代しながら歩きます。



夕暮れから夜明けにかけては、「ルミナリエバック」という、がん患者さんに向けたメッセージの書かれた白い紙袋にろうそくを灯し、それが何千個という数で会場を照らし出します。とても幻想的な風景の中、ルミナリエバックに書かれたメッセージを読みながら歩くと、患者さん、あるいはご家族の想いが伝わってきます。

当院からは、富岡総合病院、七日市病院の約80名の職員が担当時間を分けて参加していて、私は夜間(0:00~朝8:00)の参加でした。開催時期は10月上旬でしたが、夜は冷え込み、ズボンは2枚重ね履きしないと行けないほどです。それでも、気心知れた病院の仲間と一緒に頑張れて、よかったです。

最後に心に残ったルミナリエバックのメッセージを一つご紹介します。

～おじいちゃん、自転車に乗れるようになったよ～

きっと、小学校低学年くらいの子が書いたものでしょう。もしかしたら、おじいちゃんに自転車が乗れるようになったところを見せたかったのかもしれない。でも、恐らくその想いはかなわず、ルミナリエを通じて天国のおじいちゃんに自慢したかったんだと思います。

そんな、「想い」をつなぐリレーフォーライフ、来年は是非参加してみたいかがでしょうか？



※ご興味のある方は「リレーフォーライフ ぐんま」で検索してください。

用度係

用度係は課長以下9名で業務を行っています。主な業務内容は、医療機器・薬品・医療材料・消耗品等の購入および管理を行っております。質の高い医療を限られた予算の中で患者の皆様にしっかり提供できるよう、病院スタッフや取引業者とのコミュニケーションを大切にしつつ、費用対効果の高い業務を行えるよう努めております。

用度係は他部署と異なり、直接患者さんと接する機会は多くありません。しかし、医師・看護師など多くの職員が働きやすい職場環境を提供し続けることを目標として、縁の下の力持ちとして日々の業務に携わっております。



施設係

施設係は患者さんが気持ち良く診察を受けることが出来る様、課長以下6名で建物の維持管理業務を行っています。公立富岡総合病院は国から第二種エネルギー管理指定工場等に指定され、毎年1%以上のエネルギー使用量削減を求められており、院内の快適性と省エネルギー性の両立が大きな課題となっています。直近では外来エリア照明のLED化や老朽化した空調設備を高効率な物に更新し、快適性を損なうことなく省エネルギー性を高めてきました。

控え目な空調や照明、老朽化した設備の更新等で皆様に御迷惑をお掛けすることもあります。御理解、御協力をお願い致します。



オータムコンサート

昨年10月21日(土)の14時から当院エントランスホールにおいて、リリコスピラーレと県立富岡東高校音楽部の皆さんによるオータムコンサートを開催しました。

フルートアンサンブルの音色と高校生の清らかな歌声に包まれ、心地よい時間を過ごすことができました。



院内全体面会禁止のお知らせ

インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症が流行する季節となりました。患者の安全を第一に考え、流行時期が過ぎるまで**院内全体で面会を禁止**しています。

入院患者がインフルエンザやノロウイルスなどの感染症に感染すると重篤な症状を招く危険性があります。

院内感染予防のため、
ご理解ご協力をお願いします。





地域医療連携だより



御礼申し上げます

11月に開催された市民公開講座に、多数ご参加いただきましてありがとうございました。誰にでも訪れる人生の最終段階について、改めて考えることができる良い機会になったと思います。これからも、有意義のある講座を開催させていただきたいので、みなさまのご意見などをお聞かせ下さい。



「想いをつなぐノート」を活用しましょう。

病気やケガなどで、人は突然に自分の意向を伝えられなくなることがあります。事前に話し合っておくことで、たとえ意思表示ができなくなっても、あなたの考えに添った治療やケアを受けたり、生活のお手伝いをしてもらうための手助けになります。どうぞお気軽にご相談下さい。



お問い合わせ先

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)

TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406

E-mail tomihp@mail.gunma.med.or.jp

